

2013年(平成25年)3月14日 木曜日

# ヒマワリ種取り楽々

## 職能短大の 学生開発 電動専用機が完成

ヒマワリ栽培を通じた地域づくりに取り組んでいる大館市釈迦内地区の「サンフラワープロジェクト」を応援しようと、同市の秋田職業能力短期大学校2年生3人がヒマワリの電動種取り機を作った。12日に同プロジェクトの中心となっている釈迦内小学校に寄贈、児童らが早速試運転を行い、威力を確かめた。

### 釈迦内小に寄贈

これまではバーベキュー用の金網にヒマワリの花を手作業でこすりつけて種を落とす

チツク製、台座はアルミ製の軽量化。大人2人で持ち運べるという。

作業の効率や安全にも配慮していたが、同小から昨年「効率よくヒマワリの種取りができる機械が欲しい」と要望を受け、いずれも生産技術科の阿部卓実さん(20)、北林卓也さん(20)、土田慎也さん(20)が卒業制作で開発した。

完成した種取り機は高さ80センチ、長さ70センチ、幅74センチ。ドラムをモーターで回転させ、側面に張り付けた金網の表面に上から花を押し当てて種を取る仕組みだ。ドラムはプラス

は約19万円で短大が負担した。

12日の試運転では、児童が昨年収穫したヒマワリを使って効果を確かめた。花の乾燥が進んでいるため、収穫直後

より種が取れやすくなるという。改良を任せたいが、ドラムを回して網に花を押し当てると、種が簡単に剝がれ落ちた。児童からは「すごい」と驚きの声が上がった。

「強度設計や回転軸の旋盤作業など大変だったが、喜んでもらえて達成感がある」と土田さん。阿部さんは「機械の溝や隙間に種が入り込む問題に気付いた。設計図や課題



釈迦内小の児童たちによる試運転を見守る土田さん(右)ら

(嶋崎宏樹)